

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会（文部科学省）

話題提供

図書館とAIー大学における教育・学修を中心にー

2026年2月5日（木）

のずえ としひこ

野末 俊比古（青山学院大学）



tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

0

自己紹介

氏名	野末 俊比古（のずえ・としひこ）
現職	青山学院大学教育人間科学部教授・学部長 同大学革新技术と社会共創研究所副所長
職歴	学術情報センター助手 文部省社会教育官 NII客員准教授 など
社会活動	NDL科学技術情報整備審議会委員（基本方針検討部会長） 東京都立図書館協議会議長 神奈川県立図書館アドバイザー JLA図書館利用教育委員会委員長 日本教育情報学会理事 など
専門分野	図書館情報学 教育情報学 など
関心領域	情報リテラシー教育 教材（学習資源）開発 など

1

話題提供の趣旨・前提

- ・趣旨:大学図書館におけるAIへの対応(「ロードマップ」改訂の要不要を含む)に係る検討
- ・主な論点:
 - ・ AI技術を活用した蔵書探索システムを開発した狙いや経緯
 - ・ AIの利活用により高度化が可能なサービスや支援(学修支援や研究支援)についての考え
 - ・ AIの利活用により高度化されたサービスや支援に携わる大学図書館職員に求められるスキル(AIリテラシーの向上を含む)についての考え
- ・前提(条件):
 - ・ 「ロードマップ」の実現に向けて
 - ・ 現状・当面の“AI”は特化型

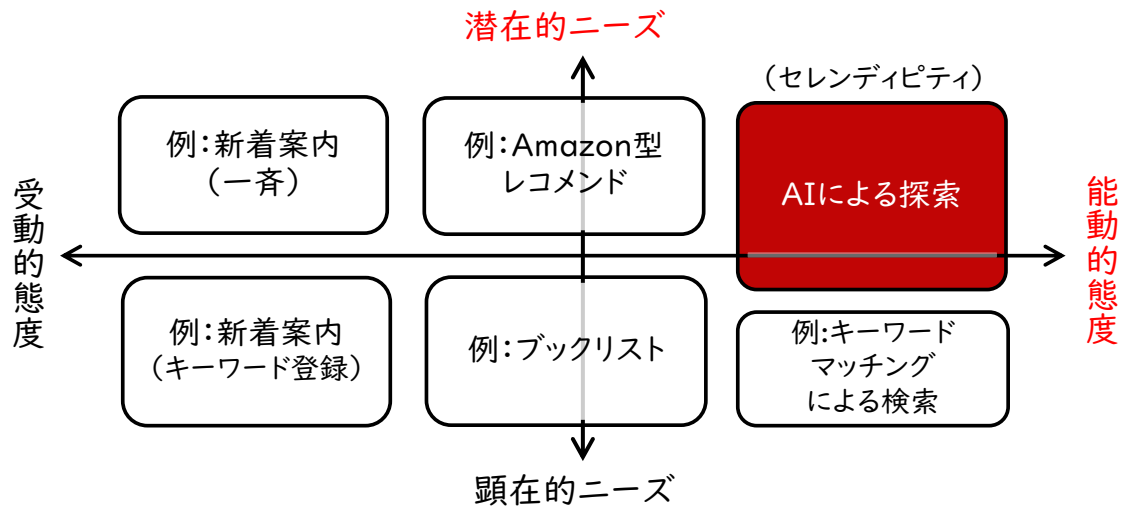
2

AIを用いた文献探索システムの開発(Ⅰ) 経緯

時期	事柄
2018年4月	青山学院大学シンギュラリティ研究所(現革新技術と社会共創研究所)が開設
同年	「近未来の図書館と新しい学び」研究プロジェクトを設置
2019年12月	富士通マーケティング(現富士通Japan)との共同研究を開始(目的:AIを含むテクノロジーを活用した学習者に最適化した次世代型図書館サービスの在り方など)
2020年	AIを活用した文献探索システムの開発に着手
2024年1月	システムの社会実装(図書館におけるサービス化)が実現
現在	システムの改良および他課題に係る調査等を継続

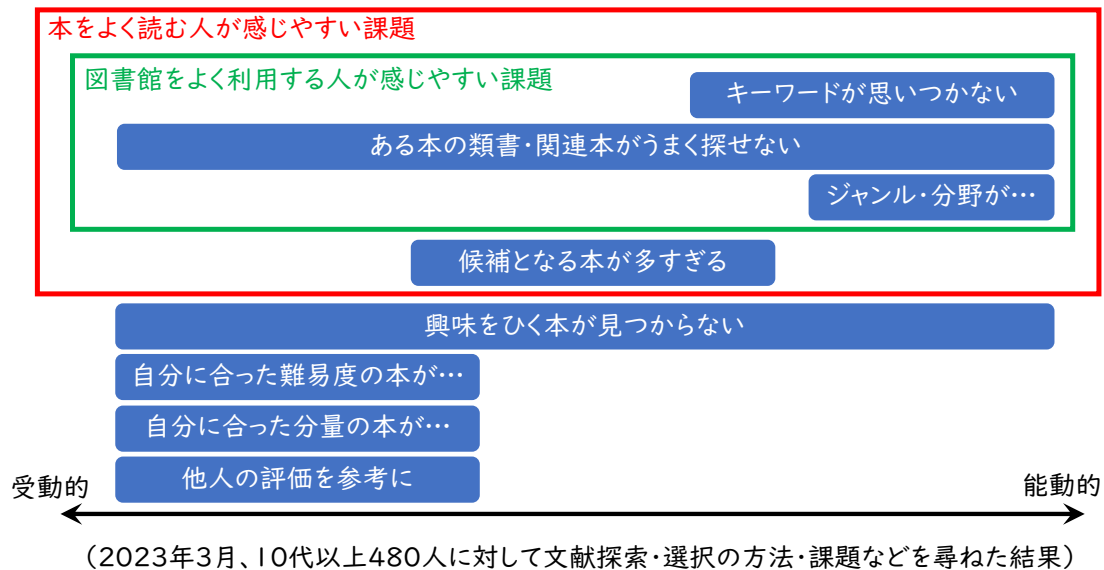
3

AIを用いた文献探索システムの開発(2) 趣旨(仮説)



4

AIを用いた文献探索システムの開発(3) 意義(質問紙調査)



5

AIを用いた文献探索システムの開発(4) 成果

成果	内容など
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIだからこそ見つかるものがある(セレンディピティなど) ・ 利用者のニーズが明確化(“対話的”な探索の効果)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIでは上手く見つからないものも(多分野にまたがるトピックや固有名詞など) ・ 利用者による“使い分け”が重要(“検索”と“探索”の違い)
示唆	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIにも得意・不得意(特化型として“つくりこみ”が必須) ・ 既存のノウハウなどとの組合せが有効(AIは人間の“パートナー”)

6

AIの可能性・課題(1) 共同研究(プロジェクト)の現状・展開

取り組み	内容・進捗など
文献探索システムの更新・改良 (文献以外の学修資源を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多分野にまたがるトピックへの対応(NDCなど) ・ 固有名詞への対応(キーワードマッチングなど) ・ 生成AIによる入力内容の拡大化・精緻化 など
目録データ以外との連動 (AI以外のテクノロジーの利用・組合せを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスなどとの連携による文献の案内 ・ ウェブ情報などの利用による有効性の向上 ・ 検索・閲覧・貸出や学習(LMSなど)の履歴、履修科目・所属学部等の個人別情報の利用 など
文献(学修資源)探索以外への適用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選書(特定テーマのコレクション構築などを含む) ・ 質問・回答(レファレンスサービス) など

7

AIの可能性・課題(2) 活用時の留意点(私見)

観点	内容など
“役割”の明確化 (人間との “分担”を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ タスクの定義 (に基づく設計・調整) は不可欠 ・ 信頼性の“程度” (「ふんわり」か「きちんと」か) によって利用を判断 (とくに文章生成・要約などを伴う情報提供について) ・ “責任”あるいは“典拠” を提示 (文献・文書等の提示、RAGの利用など)
目標(評価基準)の明確化 (評価・改善の実施を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス(教育・学修・研究支援を含む)の 最適化(個別・全体)に照らして 導入や利用(の範囲)を判断 ・ 利用者(学修者・教育者・研究者)の課題と優先順位 をカリキュラムなどに基づいて詳細化・具体化

8

AIの可能性・課題(3) 大学図書館員のスキル(私見)

観点	内容など
“AI”に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人として／組織(チーム)として ・ “道具”として／“新人”として ・ 「知る」／「使う」
リテラシーをめぐる対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい(情報)リテラシー観が必要・有効 (三つのアプローチと現代的学力観に基づく構造的・総体的理解) ・ いわゆるAIリテラシー(上記参照)に“振り回されない” ・ 教育・学修・研究(大学固有のものを含む)および 利用者の課題・状況の把握・分析に係る知識・技能を ・ 学生・教職員によるAIの適切な活用(AIリテラシーの向上を含む)を支援・促進する環境を構築・更新 (ハイブリッドかつトランスメディア的な学修・教育・研究環境を含む)

9

〔参考〕青山学院大学革新技术と社会共創研究所

- ・ 前身のシンギュラリティ研究所が2018年開設(2021年から現名称)
- ・ **AI/DXの時代(テクノロジーの活用)における人間・社会の在り方**について学際的・実証的・協働的に研究(教育的活動を含む)
- ・ 学内の専任教員と学外の研究者(客員)から構成
- ・ 外部資金(企業協賛)にて運営
- ・ 複数のプロジェクトが進行
 - ・ AI・ロボットと倫理
 - ・ 共創型デジタルマッピング
 - ・ **青学つくまなラボ(右図)**
 - ・ **近未来の図書館と新しい学び** など

青学つくまなラボ(旧)



10

〔参考〕「近未来の図書館と新しい学び」研究プロジェクト

- ・ **AI/DX時代における“学び”と“図書館”の在り方**についてテクノロジー(ICT)の活用を中心に実践的・協働的に研究
- ・ “コロナ前”の活動例(2018年～)
 - ・ 産学連携・共有型教材データベースの構築
 - ・ オンライン・協働型学習空間の構築 など
- ・ 富士通 Japan との共同研究(2019年～)
 - ・ 履歴などを活用した文献検索システムの検討
 - ・ **AIを活用した文献探索システム**の開発 など
- ・ その他の取組み(2024年～)
 - ・ 司書課程・図書館職員研修向け**映像教材(DVD)の制作**(右図) など

『シリーズ 図書館のビジョン』(DVD)



11

ありがとうございました

- ・ 今後の検討におけるヒントがひとつでもあったなら幸いです
- ・ ご意見・ご質問・ご感想はいつでも歓迎します

E-mail: tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

- ・ 発言・資料の一部には、報告者が講演・学会発表などにおいて言及・公開した内容を含みます
- ・ 見解は所属する機関等ではなく個人のものです